

環境のあゆみ 2004

会社概要

創 業 昭和33年12月6日

設 立 昭和36年9月20日

資 本 金 9,850万円

従業員数 288名（2004年4月1日現在）

事業内容 コーヒーフレッシュ、シロップ、健康飲料、レモン、洋生菓子等の食品の製造販売

関連会社 株式会社メロディアンメンテ

沿 革

昭和33年12月 大阪府八尾市に日興乳業創業

昭和36年 9月 日興乳業株式会社を資本金100万円で法人設立

昭和49年 9月 資本金2,000万円に増資

昭和54年 5月 東京営業所開設（現:東日本事業所）

昭和55年 6月 広島営業所・福岡営業所（現:九州営業所）開設

昭和61年11月 三重上野工場建設 敷地面積1万坪 40億円投資

平成 元年 3月 高松営業所開設（現:四国営業所）

6月 メロディアン株式会社に社名変更

平成 2年 4月 国際花と緑の博覧会「MELODIAN LAND」出展

平成 4年10月 株式会社メロディアンメンテ設立

12月 資本金9,800万円に増資

平成 5年 5月 長野県白馬に保養所完成

平成10年12月 三重上野工場がISO9002の認証を取得

平成12年 1月 ISO14001を全社一斉認証取得

平成13年 4月 近畿事業所・名古屋営業所（現:中部営業所）開設

10月 認証取得範囲を企画開発部門まで拡大しISO9001へ更新

平成14年12月 三重上野工場にてHACCP認証取得

平成16年 4月 岡山営業所開設

「環境のあゆみ 2004」報告にあたり・・・

この環境レポート「環境のあゆみ」は、環境保全活動の報告を主な目的として、2002年度（平成14年度）より一般の方々へ公開しております。

今回の「環境のあゆみ2004」の報告対象期間と対象範囲は次の通りです。

【報告対象期間】

2003年度（2003年4月1日～2004年3月31日）の活動内容と結果を基本としておりますが、一部報告には2004年度の計画を含んでおります。

【報告対象範囲】

メロディアン株式会社の全事業所と株式会社メロディアンメンテの環境保全活動

昨年発行の「環境のあゆみ2003」に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せ頂きました。ありがとうございました。

「環境のあゆみ2004」では、お寄せ頂いたご意見を参考に「環境目的・目標の達成状況」の報告に目標値（指標）を明記いたしました。

読者の皆様とのコミュニケーションの手段として、今回も簡単なアンケートをご用意いたしました。今後も環境保全活動と報告書作成に活用させていただき、より一層の充実を目指してまいります。

ごあいさつ

メロディアン株式会社は『おいしさ志向』、『健康志向』、『本物志向』を基本コンセプトとし、常にお客様の美と健康をサポートし感動を与える、感動生産企業を目指すべく企業活動に努力いたしております。

企業活動を通じて環境へ与える負荷を軽減すべく1991年より社内で環境対策委員会を設立し、コピー用紙1枚節減する事が環境保全に繋がるという考えのもと、身近に出来ることから全社、全部門で取り組んでまいりました。

社内では例えば排水処理施設のより充実を図り使用した水をきれいにして返すこと、原材料、各資材の省資源化、環境負荷の少ない資材の使用、エネルギーの効率化、低公害車の全社導入等々活動してまいりました。

社外的には本社、工場、各営業所付近を月に1度全社員でクリーンウォーキングを実施、また減び行く事を懸念されております高山植物を保護するために、日本高山植物保護協会に法人加入はもとより全社員会員となり活動いたしております。

環境保全に本格的に取り組むべく2000年1月26日、全社、全部門でISO14001の認証を取得いたしました。

20世紀と21世紀の大きな違いは、企業が環境や社会との共生を考慮せずには活動が出来なくなったといわれております。

当社は今年度より、会社の方針といたしましてブランド力を上げる事を最大の課題といたしておりますが、その為にも環境保全に全力を挙げて取り組む事がブランド力向上の一環であろうと認識いたし、社員一人一人が企業活動の全ての場面で環境負荷低減に向けて最大の努力をいたしてまいります。

この度、2004年度の環境レポート『環境のあゆみ2004』を作成いたしました。当社の取り組みをご理解いただくと共に、忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



2004年4月

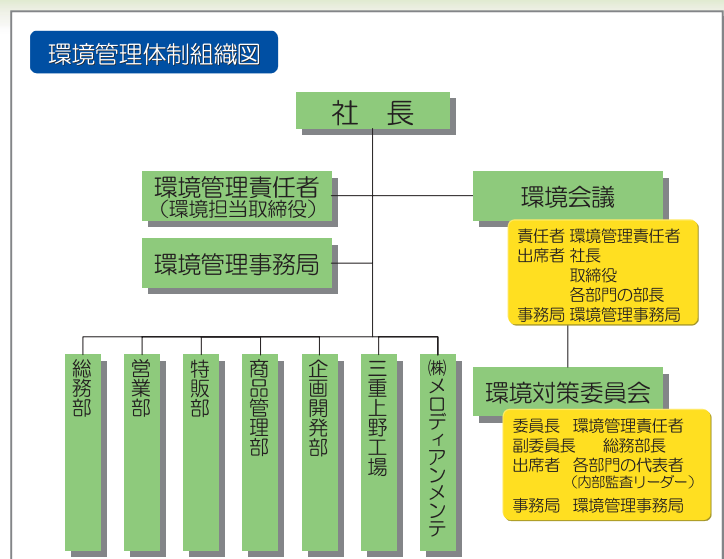
代表取締役 社長

中西 啓詞

環境保全の推進体制

環境管理責任者が毎月1回開催する環境会議には、各部門の責任者である部長をはじめ、各部門の担当取締役も参加し、環境目標の達成状況の確認や、環境情報の共有化を図ると共に、環境保全に関する重要事項の審議と決定を行っています。

また、環境会議の直下には環境管理責任者が委員長を勤める環境対策委員会を設置し、環境会議へ上申するための実務レベル協議や、内部監査のための打合せなどを実施します。



経営理念と環境方針

経営理念

— 社 是 —

1. 信頼される人間になろう。
1. 信頼される商品を作ろう。
1. 信頼される企業になろう。

— 基本方針 —

当社は、豊かな食文化の創造をめざし、真実と信頼の経営を展開して、顧客、取引先ならびに社員の繁栄と幸福に最大限寄与することにあり、以下の5項目を基本方針とします。

- 一、信頼される商品の提供、および誠実かつ積極的な社員の人間形成を通して、企業の信頼性を向上させます。
- 一、市場環境の変化に対応した着実な規模の拡大と、経営管理システムを強化・徹底して、収益構造を強化します。
- 一、顧客第一主義にもとづいた、『おいしさはしあわせ』『美と健康』をテーマに創造性豊かな新製品の開発を目指すとともに新市場開拓をより一層推進します。
- 一、法令遵守を基本に、環境保全にも積極的に取り組み、広く社会や顧客に支持される企業づくりを目指します。
- 一、働き甲斐の創造につながる、明朗かつ風通しのよい職場環境づくりを推進します。

環境方針

1. 基本理念

当社は、高山植物保護活動をはじめとして、地球環境の保全に積極的に取り組み、社会や顧客から支持される企業作りを目指し、「物を大切に」「資源を大切に」「自然を大切に」を基本に、環境負荷の低減を図ります。

2. 基本方針

- 1) ISO14001 に基づく環境管理システムの構築を行い、全社員参加のもとに環境保全活動を推進し、環境汚染の防止と環境負荷低減の継続的改善を図ります。
- 2) 環境関連の法規制、地域との協定などの遵守と、これらの管理基準を整備し、管理状態の維持・向上を図ります。
- 3) 環境目的・目標を定め、これを定期的に見直すと共に、その達成を図ります。
- 4) 無駄の排除・抑制及びリサイクルなどによる、資源の有効活用を図ります。
- 5) 電力・燃料など、エネルギーの効率的利用を推進し地球温暖化防止を図ります。
- 6) 従業員への教育、社内広報活動などを実施し、全ての従業員に対して、環境方針の周知及び環境に関する意識の向上を図ります。
- 7) この環境方針を社外へも公開し、達成を図ります。

平成 11 年 9 月 2 日

メロディアン株式会社
株式会社メロディアンメンテ
代表取締役社長 **中西 啓詞**

環境目的・目標の達成状況

目的 本社機能を活用した環境負荷の低減					
担当部門：総務部門					
	2003年度			2004年度	2005年度
	目標	実績	達成状況		
OA 機器の グリーン購入率	80%以上	100%以上	○	85%以上	90%以上
事務用品の グリーン購入率	85%以上	92%以上	○	90%以上	95%以上

主な取り組み

■ OA 機器のグリーン購入率

平成14年度は、OA機器及びOA周辺機器、今期（平成15年度）は、OA備品のグリーン購入に取り組みました。

OA備品の定義としまして、OA機器・周辺機器で利用するMO・CD-R（W）・DAT・フロッピー・各種カード記憶媒体などが該当します。

これらについては、「OAグリーン購入率調査手順書」に沿って購入率を算出しております。算出するのは、「Biznet」様及び「富士通コワーコ」様から購入のOA備品が主となります。また、量販店から購入のOA備品も該当となります。

選定に関しては、平成14年度と同様「OA機器・周辺機器・備品機種選定評価シート」でおこない、購入に関しては、金額面、環境面を考慮し、上記サイト及び量販店からおこなっております。

平成15年度の実績としましては、グリーン購入率100%を達成しており、平成16年度についても、100%継続を維持しつつ、購入基準品の見直しを行っていきます。

平成17年度からは、維持管理項目として、現状維持に努めたいと考えております。

■ 事務用品のグリーン購入率

昨年、事務用品の購入の仕組みとして『Biznet』様の仕組みを採用し、全部門に導入しました。『Biznet』様のカタログには、エコ配慮商品それぞれに対応マークが表示されています。

利用者は、カタログの環境配慮マークを見て発注すれば問題ないわけです。

発注する側も、管理する側も一目瞭然となります。

この紙面で、達成のための苦労や工夫を述べたい次第ですが、実のところは「仕組みの目の付け所が良かった。」ということになります。

今後は、平成16年度に仕組みについての見直し（必要があれば）を行い、平成17年度よりは維持管理項目として、現状の維持に努めたいと考えております。



環境目的・目標の達成状況

目的 販売活動における資源の有効活用 担当部門：商品管理部門					
	2003年度			2004年度	2005年度
	目標	実績	達成状況		
廃棄死資材金額の削減 (注3)	77%削減	28%削減	×	79%削減	82%削減
破損クレーム発生率 (注4)	1.35% 低減	14.00% 増加	×	6.55% 低減	11.74% 低減

(注3) 2003年度は2002年度の廃棄死資材金額を基準とした削減率を目標としています。

(注4) 2003年度の破損クレーム発生率を基準とした削減率を目標としています。

主な取り組み

商品管理課では環境＝経営ととらえて活動しております。

商品管理課出荷係では、配送時に於ける商品の破損クレーム発生率低減への取り組みを行って参りました。

三重上野工場から出荷された商品がお得意先様のお手元に届くまでの過程に於きまして、「商品の落下」「台車による商品への接触」「高く積み過ぎたことによる圧損」などなど様々な原因で破損クレームは発生しております。

破損となった商品は基本的にすべて廃棄・焼却という形で環境への悪影響を発生させており、破損クレームを低減することは資源の枯渇低減に結びつく活動であります。

弊社が行っている代表的な取り組みをご紹介します。

○物流事故サミットの開催

弊社商品の配送をおねがいしている運送会社様の品質向上会議(物流サミット)を行い、物流品質を上げるにはどうすれば良いか討議する場を設けております。

下の写真は2003年9月の品質向上会議(物流サミット)開催時に、実際に商品を落下させて開封検査を実施している様子でございます。



環境目的・目標の達成状況

目的 販売活動における資源の有効活用					
担当部門：営業部門					
	2003年度			2004年度	2005年度
	目標	実績	達成状況		
廃販促物金額の削減 (注5)	0.0148% 以下	廃棄なし	○	0.0098% 以下	0.0088% 以下
ガソリン1リットルあたりの売上高 (注6)	1,063 千円	2,322 千円	○	1,074 千円	1,085 千円

(注5) 廃販促物金額の目標は2003年度の販促物予算で廃棄金額を除算した比率を目標としています。
 (注6) 各年度の売上金額を、それぞれの年度のガソリン使用量で除算した数値を目標としています。

主な取り組み

営業活動（モノを売る行動）において、販促物はとても大切な手段のひとつです。
 ただ、販促物＝資源の活用・費用の発生ですので、地球及び会社の重要な資源を、いかに無駄なく使用し、商品の売り上げを上げるかを念頭において、私たちは活動しております。
 例えば、新商品を拡販するにあたり末端顧客向けにチラシ配布することがありますが、不必要な部数を印刷してしまい、無駄の発生も考えられます。
 そのようなことが起こらないように、チラシではなく、ユーザーの情報誌へ商品掲載を行い、チラシ代わりに使用していただく方法などを取り、余分な（要らない）チラシの削減。
 また、チラシを作成する場合にも今までの実績を基に必要な数のみの印刷は勿論、活用方法としても回覧タイプなどにより、少ない部数でより多くのお客様に商品を認知して頂く工夫などをしております。



そして、営業活動には車が必要な場合も多々ありますが、車の使用にもガソリン（資源）の活用・大気への影響があります。

営業としては、よほどの荷物・サンプルが無い場合には、公共機関を利用、車の台数・使用頻度などを減らしています。

また、車を使用する際には、車内の不要物の確認（5Sの徹底）、アイドリングストップなどの実施により、車にも地球にも優しい乗り方を心がけております。

公共機関利用については、環境面を考慮しての目的ではありますが、駅・ターミナルなど人が集まる場所でのマーケティングリサーチ活動なども容易にでき、車では見逃してしまう場所、人の動きなどを直に感じとることができる・・・これもメリットと考えています。

環境目的・目標の達成状況

目的		生産活動における資源の有効活用			担当部門：製造部門	
		2003年度			2004年度	2005年度
		目標	実績	達成状況		
包材廃棄量の削減 (注7)	ケーブルパック	75.86	67.24	○	72.41	68.97
	ポーション容器	85.25	82.95	○	84.79	84.33
	ポーション袋	52.27	41.48	○	50.00	48.30
中身入りポーションロス量の削減 (注8)		68.51	73.75	△	68.21	67.86
事業系一般廃棄物(可燃)排出量の削減 (注9)		2.00%削減	14.72%削減	○	7.96%削減	9.88%削減

(注7) 包材廃棄量の削減は2001年度のロス量を100とした場合の比率です。

(注8) 2001年度のロス量実績を100とした場合の比率です。

(注9) 2002年度の廃棄量実績を基準とした削減率を目標としています。

主な取り組み

自社製造商品の製造拠点である三重上野工場の2003年度の取り組みは、上表の成果を得ることができました。

「中身入りポーションロス量の削減」の項目は、目標に対してやや未達となりましたが、ロス分析の充実や管理強化設備を特定しての改善活動を展開し、機械別ロス目標の設定や専任化メンバーによる取り組みといった今後につながる活動を行いました。

また、大きく目標を達成した「事業系一般廃棄物(可燃)排出量の削減」については、年度当初より主力製品であるコーヒーフレッシュの処方変更が計画されており、その計画上では原材料の品種増加が明らかになっていましたので、その増加する原材料の梱包材から紙製の梱包材があり、従来は古紙回収できないため事業系一般廃棄物(可燃)と同様に処理されておりましたが、廃棄物管理主管部署を交えた古紙回収業者様と「どのようにすれば古紙回収の工程に投入できるか。」というテーマで検討を進めた結果その増加分の梱包材を含めて可燃廃棄物として排出する総量を大きく低減することが出来ました。

「包材廃棄量の削減」の項目は、「ケーブルパック」「ポーション容器」「ポーション袋」の3項目全てが3年先の2005年度目標値以上に改善することが出来ました。

包装材の長尺化による切り替え回数の低減や、切り替え作業の操作箇所の数値管理化などQCサークル活動を交えながら機械別、個人別の目標設定を行うなどハード面、ソフト面の両面での取り組みによる成果であると考えています。

これらの成果は、今後も維持継続するとともに、引き続き改善できるよう日々、週間、月間でのロス実績の管理を行っています。

また、機械や設備の保全を担当する部署では、旋盤機器の清掃を従来はウエスにて切削油と切削屑をふき取っていた物を、旋盤清掃用掃除機を設置し掃除機のゴミ回収の際に切り屑と機械油を分別できるように工夫するなど、製造工程に関わるそれぞれの職場で創意工夫を実行しています。

環境目的・目標の達成状況

目的 企画開発における環境負荷の低減					
担当部門：企画開発部門					
	2003年度			2004年度	2005年度
	目標	実績	達成状況		
販促物のグリーン購入率 (注 10)	20%以上	39%	○	25%以上	30%以上
研究開発の工程から排出される一般廃棄物(可燃)排出量の削減 (注 11)	2%削減	38.5%削減	○	40%削減	41%削減

(注 10) 2002年度の販促物件数59件に対するグリーン購入(社内基準)実施件数の比率。

(注 11) 2002年度の廃棄量実績を基準とした削減率を目標としています。

主な取り組み

【商品企画課】

2003年度、商品企画課は、販促物のグリーン購入に積極的に取り組みました。

2002年度のグリーン販促物件数6件に対し、12件以上のグリーン販促物購入(購入比率20%)という目標を設定しました。

達成のための方策は、地球温暖化や酸性雨など大気汚染の原因となる揮発性有機化合物の成分が少ない大豆油インク「SOYインク」を中心にグリーン販促物購入を行いました。

結果としまして、グリーン購入比率の目標20%以上に対し、実績39%、目標比195%と大幅に目標達成し、件数では23件をグリーン販促物に代替えることができました。

写真の総合パンフレットも「SOYインク」を使用し作成しています。

また、このパンフレットは、再生紙も使用していますので、「SOYインク」と合わせて、環境負荷の低減に貢献しています。

今後も紙を使用した新規販促物については、「SOYインク」を中心にグリーン販促物購入を積極的に実施してまいります。



総合パンフレット(秋冬)

【研究開発課】

研究開発課では、コーヒーフレッシュや飲料の試作で発生する廃液をそのまま下水に捨てるのではなく、処理してから下水に流しています。

この処理を行うことにより下水の負荷が低減されます。

処理の方法は、廃液中に豆乳を固めて豆腐を作る時に使用する「グルコノデルタラクトン」という凝固剤を入れ固形分を凝固させ、加圧し絞ります。

加圧で残ったおから状のものは可燃廃棄物として廃棄し、搾汁された液は、pH調整して下水に流しています。

この方法は以前 QCC 活動テーマとして取り組んだ成果に今回、加圧条件など条件を見直すなどして、更に効率化を行い、取り組みました。



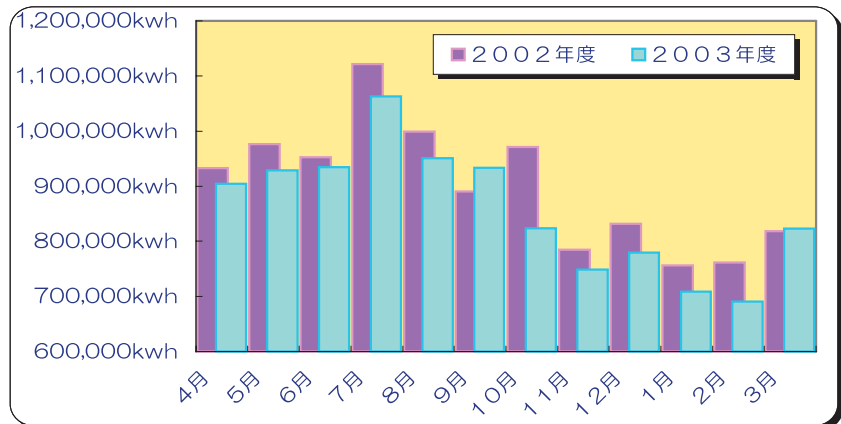
廃液を加圧している様子

環境保全に関するデータ

電力消費量の推移

第2種エネルギー管理指定工場である三重上野工場の省エネ対策や各事業所の節電によって、前年対比で約4.7%の年間電力使用量を削減することが出来ました。

全事業所の総使用量の月別推移は右のグラフの通りです。



排水処理の管理状況

当社、三重上野工場の生産ラインから洗浄などによって排出される排水の管理状況は、下表の通り関連する法規制の基準値を下回って問題なく推移しております。

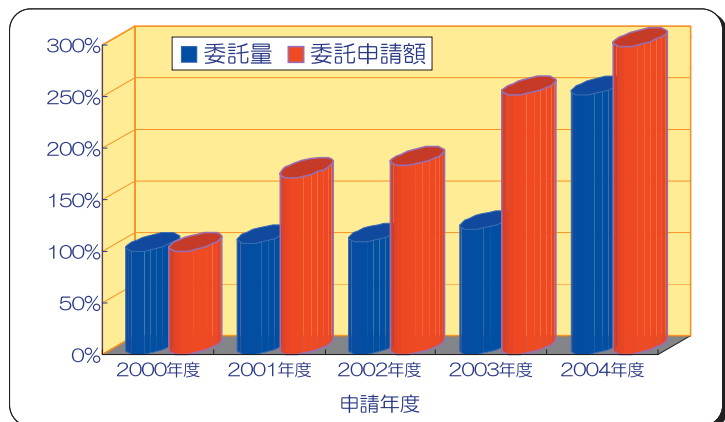
単位：mg/L (但し、水素イオン濃度は単位なし、大腸菌群数は個/ml)

測定項目 (基準値)	測定サンプル採取日(月/日)と測定結果											
	4/24	5/22	6/26	7/28	8/22	9/24	10/28	11/25	12/24	1/21	2/25	3/22
水素イオン濃度 (5.8~8.6)	7.70	7.70	7.50	7.50	6.90	7.10	7.20	7.00	6.20	7.30	7.00	7.00
生物化学的酸素要求量 (25以下)	2.00	4.00	10.00	1.00	2.00	1.00	3.00	1.00	2.00	1.00	1.00	1.00
化学的酸素要求量 (なし)	14.00	12.00	10.00	9.00	11.00	14.00	13.00	15.00	19.00	17.00	17.00	16.00
浮遊物質量 (90以下)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ルルル抽出物質 (10以下)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.60	0.00	0.00	0.00	0.60	0.00	0.00
全窒素 (120以下)	18.00	24.00	18.00	18.00	15.00	13.00	13.00	21.00	21.00	7.50	15.00	16.00
全リン (16以下)	1.40	1.80	1.00	1.10	0.27	0.23	0.34	0.18	0.19	0.17	2.60	3.10
大腸菌群数 * (3000以下)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	14.00
亜鉛 (5以下)	平成15年11月からの追加項目です。 不定期に測定する項目としています。								0.10	0.05	測定頻度 年1回以上	
基準適合判定	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合

* 大腸菌群数の(-)は測定限界未満の陰性を示す。

容器包装リサイクル法の委託実績

当社は容器包装リサイクル法に定められた「特定容器利用事業者」として、法で定められた指定法人(財団法人 日本容器包装リサイクル協会)への委託という方法をとっており、その委託量などは初年度を100とすると、右のグラフのように推移しています。



高山植物保護の支援活動

メロディアン株式会社の環境への取り組みの象徴的活動として行っている『日本高山植物保護協会（以下 JAFPA）』への支援活動ですが、平成15年度は法人部会の拡充など、活動の輪が更に広がり、より充実した活動となりました。

1. NPO法人設立



甲府市で開催されたNPO法人設立総会

平成元年よりボランティアの民間団体としての立場で活動を行ってきたJAFPAも、平成16年4月より特定非営利法人（NPO）として新たなスタートを切ります。

メロディアン株式会社としても、経営管理課國貞課長が引き続き同協会理事に就任し、より強固なバックアップを行う体制としました。

また、支援基金としていた「日本高山植物保護信託預金」についても、金利情勢を鑑み、運用方法を変更し、より充実した内容にいたしました。

2. JAFPA関西支部支援活動

支部設立11年目を迎える関西支部においては、総会および観察山行に5名の社員を派遣して活動を盛り上げました。

今回の観察山行は、滋賀県と岐阜県の県境にある夜叉が池にて開催され、サンカヨウ（写真左）などの植物の観察を行いました。

関西支部では毎年1～2回の観察山行により、高山植物の観察を行っております。



高山植物「サンカヨウ」

3. JAFPA関西支部法人部会支援活動

環境学習会参加者概要
第4回 12社39名
第5回 17社94名

法人部会も設立3年目を迎え、質量ともますます充実してまいりました。特に今年は、会員数が一気に20数社増加し、56社を数え、11月に開催された定例総会も大いに盛り上がりました。

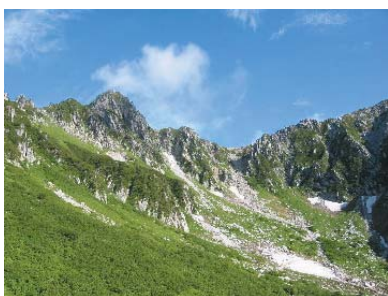
総会における白籟史朗先生の講演などにより、多くの経営者の方が保護の必要性を認識されたことと思います。

「日常自然環境とは無縁の生活を行ってはいるが、改めて企業経営と自然環境保護の共生の必要性を痛感した。」との感想を持たれた経営者の方もおいででした。

定例となってきた環境学習会も第4回（8月：中央アルプス千畳敷カール）、第5回（メグミルク京都八木工場）の2回の開催を行いました。

特に第4回では、初めての本格的な2,500m以上の高山帯での観察山行で、コマウスユキソウなど非常に貴重な植物の観察も行いました。

今後も毎年高山帯への観察山行も企画する予定です。



第4回環境学習会
「中央アルプス千畳敷カール」



高山植物「コマウスユキソウ」



第5回環境学習会
「メグミルク京都八木工場」



事業所一覧

本社	〒581-0833	大阪府八尾市旭ヶ丘 1 丁目 33 番地	TEL : 0729-99-3250 (代表)
東日本事業所	〒151-0053	東京都渋谷区代々木 4-29-4 (西新宿ミナビル 3F)	TEL : 03-5371-3637 (代表)
近畿事業所	〒532-0003	大阪市淀川区宮原 5-1-18 (新大阪サウアルセンタービル 10F)	TEL : 06-6150-3277 (代表)
中部営業所	〒450-0002	名古屋市中村区名駅 4-2-7 (丸森パークビル 5F)	TEL : 052-587-5150
岡山営業所	〒700-0907	岡山市下石井 1-1-3 (日本生命岡山第 2 ビル 6 階)	TEL : 086-235-3826
広島営業所	〒730-0014	広島市中区上幟町 11-46 (エクセレント上幟 202 号)	TEL : 082-227-5313
四国営業所	〒760-0018	高松市天神前 10-12 (香川天神前ビル 3F-6 号)	TEL : 087-834-6712
九州営業所	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南 1-5-18 (サウス・ワン 1F)	TEL : 092-474-4227
三重上野工場	〒518-1151	三重県上野市白樫 2816 番地 6	TEL : 0595-20-2000 (代表)

メロディアン株式会社



この環境レポートは古紙100%再生紙を使用し、大豆油インクで印刷しています。

2004年5月発行(VOL. 13)